



ブータン王国と福井県の漆器産地技術交流

福井県総合政策部ふるさと県民局地域交流推進課

「幸福」をきっかけに交流スタート

福井県は、民間の各種調査で「幸福度日本一」と評価される地域です。本県の幸福は、子どもの学力・体力の高さ、安定した生活基盤や雇用環境、地域のつながりなど、地域住民の努力のもとに成り立つものです。こうした幸福度の高さがきっかけとなり、世界一幸福な国と言われるブータン王国との交流がスタートしました。

2012年3月には、王立ブータン研究所と相互協力に関する覚書を締結し、ブータンの大学生や若手公務員の研修の受け入れを進めてきました。

2013年には、西川知事がブータンを訪問し、国王や首相等と面談し、経済面での交流を拡大していくことなどを話し合いました。

これを受け、2015年3月、ノルブ・ワンチュク経済大臣（当時）が福井を訪問し、本県のものづくり産業を視察されました。この中で、越前漆器産地の高い技術水準に触れ、大臣から漆器に関する技術交流を進めたいという提案を受けました。そこで、まずはブータンからの研修生2人を越前漆器産地に受け入れ、3カ月間にわたる技術指導を実施することとしました。

研修事業の実施にあたっては、クレアの自治体国際協力促進事業（モデル事業）を活用しました。



経済大臣の来県時に越前漆器産地を視察

ブータンと福井の漆器

ブータンには、漆器や織物、絵画など13の工芸品があります。漆器は、ブータン東部のタシヤンツェ（県）に産地があり、約30軒の工房で伝統的な形状のお椀などを作成しています。4つある国家目標の1つに「文化の保護と振興」を掲げるブータンにおいて、海外からの観光客増加とあいまって、観光土産品としても期待される漆工芸の振興は重要な政策となっています。

一方、福井県の越前漆器は、約1,500年の歴史があると言われており、鯖江市河和田地区に200軒余りの事業所が集積し、漆器の製造販売に携わっています。越前漆器は、量産体制を整備し、旅館などで使われる業務用漆器の約8割を手がけるなど、全国有数の産地となりました。現在では、漆器だけでなく、装飾品としての用途も広がっています。

越前漆器は、主に木地づくり、下地塗り、上塗り、加飾（蒔絵、沈金）の4つの工程に分かれ、分業制による生産をしています。

今回、越前漆器協同組合の4人の職人の協力を受け、ブータン研修生の指導を実施しました。

ブータン研修生への技術指導

研修生のうち1人は、伝統技芸院と呼ばれる職人養成学校で漆器コースの講師をしており、もう1人は、技芸院を卒業し、漆器製造を行っている職人でした。しかし、ろくろ挽きや漆塗りなど、ブータンとは異なる部分が多く、少し戸惑いながらの研修スタートとなりました。

ブータンでは、木を加工する電動ろくろが普及していますが、削るためのカンナの材質が異なり、日本の方が堅い鋼製を使用していました。研修生は、日本の一般的なお椀と、ブータンでポップと呼ばれる伝統的な形状の器の2種類の製作技術を磨きました。福井の職人が1

ミリの狂いもなくお椀を作る技術に驚き、ゲージを使いサイズを統一する手法を熱心に学んでいました。

また、ブータンでは、主に拭き漆という透明な漆を塗るため、下地塗りの工程は未経験でした。この工程は、器を補強し、仕上がりを良くするために重要なものであり、ブータン漆器の品質向上に役立ちます。上塗りの工程は、最も繊細な作業であり、ほこりが入らないよう刷毛で慎重に漆を塗り進めるため、技術の定着には継続した訓練が求められます。

最後の加飾の工程では、蒔絵という絵付けの技術を学びました。ブータンの仏教に関する意匠も取り入れた、新たなデザインの漆器は、ブータンの漆器産業の発展の可能性を感じさせるものでした。

研修生は少しでも多く学びたいという気持ちが強く、また、指導職人にとっても中途半端な技術は教えられないという思いがあり、連日熱心な指導が続きました。成果報告会では、精密なものづくり技術や自ら道具を作るこだわりなど、学んだ技術を母国に広げたいという意欲が感じられました。

今後の展開

今回の研修は、越前漆器の基本的な技術の体験にとどまります。技術定着に向けては、現地の材料や技術レベルに合わせた継続的な指導が必要になります。そのための財源確保が課題でしたが、今回のクリアのモデル事業を契機として、JICAの支援が決定するなど、次の展開に移ることができました。

今年7月には、越前漆器職人がブータンを訪問し、現地の漆器産業の現状を調査し、さらに、10月には、モデル事業の2年目として、ブータン東部の漆器産地における技術指導を行う予定になっています。

また、福井県には越前和紙や越前打刃物をはじめとする7つの伝統的工芸品と28の郷土工芸品など、多くの伝統工芸が残っています。工芸品の枠を超えた商品の共同開発や後継者の育成、ブランド発信等を進めており、漆器以外の分野においても有益な交流が可能と考えます。

漆器に関する交流を契機として、ブータンの伝統文化の振興が図られるとともに、福井とブータンとの交流がさらに深化していくことを期待しています。



木地づくりの技術指導



指導職人と並んで上塗りを実習